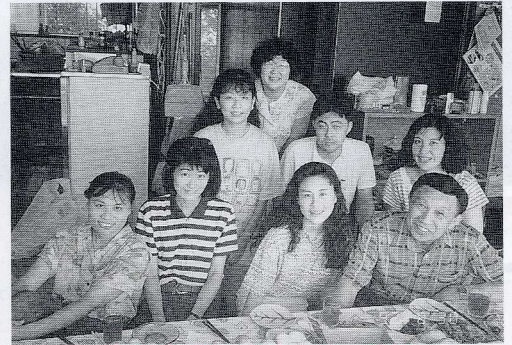


# ニイ ハオ 今日は！ 你好



講座の夏合宿 (向かって左…筆者)

## はじめに

「日本料理の中で食べられない物がありますか」と、初めて知り合った日本の方によく聞かれる。実は納豆を食べたことがないのに、いつも「納豆」と答えてしまった。なぜそう答えたかという、「くさい上に粘って糸を引き、気持ち悪い」と多くの人から聞いたからである。ある機会で、納豆を食べたみた。案外にそれほど食べられない物ではないと感じた。

## 日本人に対する二つの印象

私の日本人に対する最初の印象は、小さい時、植民地時代や第二次大戦を背景とするテレビのドラマに出てきた日本人から得た。それは、軍人の装束で、「馬鹿野郎」と言いながら、中国人を鞭で打ったり、銃を手にして中国人

# 納豆から考えたこと

教育学研究科幼児学専攻  
博士課程後期三年

WU SHU SHIN  
呉 淑 琴

を殺したりする「悪い人」であった。

小学校に入って、初めて日本が中国を侵略する歴史を教えてもらった。その後、中学校、高等学校の歴史の授業では、繰り返し、その侵略の歴史を教えられる。また、大学に入って歴史学を専攻した私は、よりいっそう、日本はどのように中国を狙って、侵略の野心を拡張していったかについて勉強した。つまり、昔の侵略の歴史に重点を置いている教科書などの文献から、私は「悪の日本」「侵略者の日本人」という印象を受けた。それに加わって、日本は驚異的な経済発展につれて全世界へと進出した結果、日本人は経済上の利害だけで行動する「エコノミック・アニマル(経済動物)」と呼ばれるようになった。このような、あまり人間の血が通っていないように聞こえる呼び方が、私の日本人に対するもう一つの印象を形成させた。

## 幸せな生活を築きたいという願いは、万国共通の願い

しかし、日本での留学生生活を送っているうちに、私は肌で、日本人のやさしさ、規律正しさ、勤勉さを感じたり、異なる風俗習慣、言葉使いなどから示唆を受けたりしたことが多くあった。

他方では、子どもを塾へ送り迎えをする日本の親たち、デパートのバーゲンで買い争う人たち、宝くじを買うために長い列を作っている人たち、呉の港で自衛隊派遣から帰ってくる肉親を迎える家族の涙、さらに、港の控え室の壁に貼ってある「気を抜くな毎日違う 海の顔」という励ましの言葉をも見た。

これら以外にも見たり聞いたりして、日本人は「侵略者」や「経済動物」というよりも、むしろわれわれと同じよ

## プロフィール



- ▽台湾の新竹市生まれ
- ▽一九八四年七月台湾大学文学部を卒業
- ▽一九八九年四月教育学部の研究生として来日
- ▽一九九〇年四月教育学研究科博士課程前期に入学
- ▽一九九二年三月同研究科を修了し、後期に進学

うに、喜び、悲しみ、苦しみ、そして幸せな生活を築きたいという願いを持って一所懸命生きていくのではないかと私は思った。

## おわりに —納豆も意外に食べられるもの—

私は納豆を食べてから、実は意外に食べられるものだと思見した。また実際に日本人に接してから、これまで持っていた印象と違って、日本人は、われわれと共通な人間性を持って自分なりの幸せを求めていると分かった。われわれは、白紙の状態ではなくて、まわりからのさまざまな情報によって作られた、物事に対する先入観や偏見を持っていて、人々の心を隔てるのは「先入観や偏見」という目に見えない壁なのではないだろうか、と私は思う。